



するい子育て ～叱らなくてよいシステムづくり～



新しい年を迎えて、新年の誓いを立てた方も多いと思います。「今年こそは、子どもをなるべく叱らないでいよう！」と、思っている方におすすめの方法を紹介します。



「ここにカバンを掛けられたら便利だな」と感じたらフックを取り付けたり、「明日は遅刻しないようにしよう」と思ったら目覚ましをかけたり。私たちは、仕事や生活がうまくいくよう、何かしら工夫するものです。

しかし、子どもはまだ工夫することを知りません。そのため、忘れ物をしたりやるべきことができなかったりと、日々残念なことが起こってしまいます。

そのとき親は、

「何回言ったらわかるの？」

「なぜできないの！？」

と叱りつけたくなりますが、それでは解決になりません。

子どもができないのは当たり前。ではどうすればよいのかというと、親がすべきことは

「叱らなくてすむ工夫」です。「叱ってすませる」のではなく「叱らなくてよいシステム」を作ることです。



いくつか例を紹介します。

ミニトマトに水やりをするのを忘れるAさん

水を入れたペットボトルを枕元に置いて寝るようにしたら忘れなくなった。

学校から体操着を持ち帰るのを忘がちだったBさん

ランドセルのふたの内側に「体操着」と書いた付箋を貼るようにしたら忘れなくなった。

朝起きるのに時間がかかるCさん

枕元におしほりを置いて寝て、朝目が覚めたらおしほりで顔や手を洗くようにしたら、起きるのにかかる時間が半減した。



合理的な工夫をすると、物事がうまくいくだけでなく、もっといいことが起こります。それは、「うまくいかないことがあるときは、工夫する」ということそのものを子どもに教えられるということです。

親が工夫していれば、子どもも工夫することを学ぶのです。